

# 緑と土と太陽

テーマ：“緑と土と太陽”

ともに活動し、かがやけ港っ子！



## 佐世保市立港小学校

特色ある学校づくり推進会

会長 高橋 ちあき

所在地：佐世保市天神町1603番地

児童数：293名

学級数：14学級

# 1 テーマ “緑と土と太陽”ともに活動し、かがやけ港っ子！

## 2 目的

- (1) 「学力向上を目指し、学びに向かう主体的態度を養う教育の実践」
  - 学習の基盤となる言語活動の推進
  - 習熟度別学習による算数科学力の向上
- (2) 「“ことばを育てる” “ことばで育てる” ための教育活動の展開・言語環境整備」
  - ことばを育てるための言語環境整備
  - 読書活動の推進（朝の読書と家庭での読書の啓発・読書目標の設定）
- (3) 「緑と土と太陽とともに活動する体験的学習の実践」
  - 環境保全意識を高める体験的な学習の実践
  - 地域の良さを体感できる体験活動の実践（地域の教育力の活用と郷土愛の育成）
  - いのちとふれ合う体験活動の推進（花や野菜の栽培計画・実践）

## 3 実践内容

### (1) 「学力向上を目指し、学びに向かう主体的態度を養う教育の実践」（全学年 通年）

#### ①学習の基盤となる言語活動の推進

校内研修と関連させ、授業での対話活動を積極的に位置づけ、言語運用の力を高めるようにしました。授業では、自分の考えを発表する機会を設けたり、グループでよりよい意見を話し合ったりする活動を多く取り入れました。さらに、学年をこえ、他学年との交流活動や対話活動を仕組むことができたと感じます。その結果、児童のコミュニケーション能力が高まりました。



#### ②標準学力調査の実施（全学年 12月）

本校児童の学力状況を知るために、国語科と算数科において標準学力調査（東京書籍）を今年度も全学年で実施しました。昨年度、学力調査を分析した結果、基礎基本の習得に大きな課題があることや、個人差が大きいことが分かりました。その課題を克服するため、今年度は、少人数指導や習熟度別学習を取り入れ、一人一人が確実に力を身に付けられるようにしました。



12月に実施した学力調査結果を見ると、国語では、6学年中2学年が、算数では6学年中4学年が昨年度の学力調査の結果を上回りました。他学年においても、全国平均との差が徐々にではあるが縮まっています。今後も、学年ごとに経年比較をすることで、本校の学力状況を明らかにして、学力向上を図っていきます。

#### ③習熟度別学習による算数科学力の向上

全校で実施した学力調査の結果を受け、個人差に対応するために、3学年からは学級を分けて少人数指導を実施しました。さらに、6学年では、ひとクラスを2つに分けて習熟度



別学習を実施しました。その結果、理解が進まない児童も、個別に指導を受けられるようになり、基礎的な学習事項を身に付けることができました。

## (2) 「ことばを育てる」「ことばで育てる」ための教育活動の展開・言語環境整備

### ① ことばを育てるための言語環境整備

“ことばで育てる”“ことばを育てる”は今年度の港小学校の重点テーマです。学校全体でことばへの感性を高め、意識してつかうことができるようにするために、今年度は言語環境を整えました。めざす児童像や校歌の歌詞を掲示し、児童の意識が高まるようにしました。また、地図や暦、英語で表記したものを掲示し、児童の身近にあるものを言語化し、興味をもてるよう工夫しました。さらに、「ありがとう」「だいじょうぶ」など、児童が日常的につかってほしい言葉を掲示し、言葉に対する感性を高めるようにしました。

言語環境を整え、日常的に前向きな言葉にふれさせることで、児童のことばに対する意識を高めることにつながりました。校内での元気なあいさつ、他の人をみとめる言葉が数多くきかれるようになってきました。このことは、学校全体に落ち着いた雰囲気を広げ、安心して生活できることにもつながったと感じています。

環境整備の一つとして、今年度は、ハートルーム(教育相談室)の整備を行いました。落ち着いて教育相談ができるように、壁際の棚の上に白の天板を貼り、壁も明るい色に塗り替えました。また、椅子やパーテーション、バランスボールなど、落ち着いて過ごせる環境整備に力を入れました。その結果、昨年度よりもハートルームの活用回数が増え、教育相談室として有効に活用することができました。さらに、一斉指導で学習が進まない児童の学力を保障するため、学習プリントなどを準備し、個別学習できるようにしました。



### ② 読書活動の推進 (朝の読書と家庭での読書の啓発・読書目標の設定)

本校では、読書教育の充実に努めています。学校司書と連携しながら読書目標の設定と図書室の環境整備に取り組んできました。年間読書目標100冊を設定し、年度当初から児童に指導を行ったり、その目標を達成した児童には、委員会から一度の貸し出し冊数を増やす特典を与えたり、工夫して取り組みました。

取組の結果として、1月末までの貸し出し冊数が、今年度はおよそ31000冊になり、成果となっています。

## (3) 「緑と土と太陽とともに活動する体験的学習の実践」

港小では、“緑と土と太陽”をスローガンとして、環境保全を中心とした環境学習に取り組んでいます。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、可能な限り連携して取り組めるようにしました。



### ①平和について考えよう（全校 6月29日）

佐世保空襲を体験された方に取材をし、その様子をビデオで撮影しました。その時の生活状況や当時の思いなどを語っていただきました。平和集会の際にそのビデオを見て、平和の大切さについて考えました。児童は大変熱心にビデオをみていました。当時の様子を具体的に聞くことができ、平和の大切さを十分に感じることができました。

### ②身近な環境について考えよう（3年 通年）

身近な環境問題として、本校近くにある轟湾の環境を取り上げて学習を行いました。総合的な学習の一環として取り組みました。例年なら、地域の方を招いて、お話をしてもらっていたが、今年度は、できる範囲での活動となりました。

まず、町内を歩き、自分たちがクラス地域のごみ問題を調査しました。普段自分たちが生活している場所のごみの様子をあらためてみると、予想よりもごみが多いことに驚いていました。公園や通学路のごみ拾いを行った後、轟湾の周辺のごみの様子を観察しました。湾内を観察すると、様々なごみが漂着していることに気がきました。



次に、自分たちができる環境にやさしい取組を考えるため、エコプラザの方の協力を得て、みんなのできるエコ活動についてカルタをつかって学習を進めました。実際に来校しての学習が難しいため、リモートで外部とつなぎ、具体的なリサイクル方法について学習をしました。その後、リサイクルできる一つの例として、紙すき体験を行いました。この学習を通して、身近な環境の大切さに気づくとともに、児童の環境保全に対する意識を高めることにつながったと感じます。



### ③EM菌を使った土づくり（5年 通年）

今年度も「環境美化を考える会」の方にご協力をいただき、EM菌を使った土づくりを行いました。はじめ、EM菌のはたらきについて学習した後、EM菌と糖蜜、米糠などを混ぜ、ぼかしをつくり、各家庭から持ち寄った生ごみ混ぜ合わせ、自然にやさしい土づくりを行いました。土づくりを行ったあと、今年度も大根を植え、栽培活動を行いました。



環境にやさしい栽培活動について学び、実際に自分たちで取り組んだことから成長の喜びを感じることができました。また、児童の感想には、植物も、人や動物と同じ生命があることに気付く記述が多く見られたことから、植物にもやさしい心で接しようとする気持ちが高まったといえます。

#### ④メダカの住む環境づくり（飼育栽培委員会 10月21日）

“港小学校にある池をメダカの住む池にしよう”というテーマで、今年度は「中原 康彦 博士」をゲストティーチャーに招いて授業をしていただきました。飼育栽培委員会に所属する児童を対象に、メダカについて詳しくレクチャーしていただきました。港小の池を観察し、よりメダカが住みやすくなるには、水草などが必要であることなどを具体的に指導していただきました。これまで手付かずだった池の環境整備を進めたことで、身近な自然に関心を持ち、進んで環境に働きかけようとする意欲が高まったと考えます。



## 4 成 果

### (1) 「学力向上を目指し、学びに向かう主体的態度を養う教育の実践」

- 本校の学力状況を把握し、課題の克服のための具体的方策をとることに役に立ちました。
- 分析し手立てを工夫した結果、算数科では、4学年が昨年度の結果を上回りました。

### (2) 「“ことばを育てる” “ことばで育てる” ための教育活動の展開・言語環境整備」

- ことばを育てるための言語環境整備を整えたことで、学びに向かう力が高まりました。また、落ち着いた雰囲気の中で学ぶことができるようになりました。

### (3) 「緑と土と太陽とともに活動する体験的学習の実践」

- 身近な環境を調査することで、自分たちの暮らし方と環境問題のつながりについて意識を高めることができました。
- 土づくりからおこなった栽培活動によって、植物のたくましさ、食の大切さに気付くことができました。

## 5 今後の課題

- 実態把握を把握し、経年比較することで、本校の学力課題が明確になった。課題克服に向け、授業改善の視点をより明確にして取り組むことが今後さらに重要となってくると考えます。
- 体験活動が新型コロナウイルス感染症との関連で実施できるか不透明である。ICT 機器を活用するなど、コロナ禍における体験活動の在り方をさぐる必要があると考えます。
- 来年度も“ことばを育てること”に特化した取組を進めたいと考えます。さらに、認知機能を高めるトレーニングを合わせて行うことで、豊かな感性を育むとともに主体的に学びに向かう力を育てたいと考えます。